

～ 会議開催結果の概要 ～

1. 作成日	令和8年7月23日（木）
2. 会議名	第4回海南市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会
3. 開催日時	令和8年7月23日（木）午後1時30分から午後2時35分まで
4. 開催場所	海南市役所3階 会議室3A
5. 議題及び結論	1. 海南市高齢者福祉計画及び第10期介護保険事業計画（案）について 2. その他
6. 発言の内容	議題1 海南市高齢者福祉計画及び第10期介護保険事業計画（案）について ◆委員からの質疑 ①予算や人的な関係で、問題なく計画を実施していくことは可能なのか。また、計画書には、専門用語やカタカナ語が使われている。計画書の最後に用語解説のようなものを記載することはしないのか。 （事務局） 必要な対策を講じて進めていく。また、行政だけでなく地域の方々の協力を得ながら進めていきたい。なお、用語解説については計画書の最後に記載する予定である。 ②介護認定に係る調査は適切に行われているのか。 （事務局） 要介護認定を行うに当たっては、調査員による聞き取り調査と主治医の意見書を基に認定審査会において認定している。調査員の質の向上と認定調査の平準化、また、認定審査会の質の維持と平準化を目的として研修を行っている。なお、要介護認定は病状を評価しているわけではなく、ケアの手間暇を時間に換算し、ケアの必要度を判定するものであり、介護の必要量を全国一律の基準に基づき、客観的に判定する仕組みとなっている。 ③国が示している介護サービス基盤の計画的な整備において、地域の実情に応じたサービス提供体制の構築について、どのように考えているのか。 （事務局） 本市は大半を山や森林などが占めており、人口は減少し、高齢者人口も減少しているが、高齢比率は逆に増加している。利用者への介護サービスが適切に提供されるよう、その需要に応じて計画的にサービス基盤の維持・確保を図る必要があること、また、住民の理解のもと、サービス提供の維持・確保を前提として、柔軟な対応を講じていくことが必要であると考えている。 ④計画を策定するに当たり、他の計画と整合性を図っていく必要があり、医療と介護の連携が強調されているが、市独自の医療系の計画はあるのか。 （事務局） 市独自の計画はない。計画を策定するに当たっては、県の地域医療構想との整合性を図りながら進めていくものとする。

	⑤今回の計画では、認知症対策に力を入れていくことになると思う。当事者や家族の意向を伺う機会はあるのか。また、認知症の方の社会参画の機会等はあるのか。 (事務局) 当事者や家族を対象とした交流会を年３回程度実施している。今後は介護事業所に出向いての聞き取りを考えている。社会参画の機会としては、交流会や各圏域に認知症カフェを設置している。 ⑥近所の方で、明らかに様子が変わってきている人がいた場合、どこに相談すればいいのか。 (事務局) 地域包括センターに相談してもらえればいい。 ⑦今回の計画の施策体系において、重視する点などあれば教えてほしい。 (事務局) 認知症対策の推進において、「新しい認知症観」の理解と知識の普及・啓発に取り組んでいきたいと考えている。「新しい認知症観」とは、認知症になっても、できることや役割が豊富にあり、工夫や周囲のサポートを得ながら、その人らしく希望を持って地域で暮らし続けられるという考え方である。認知症の人を単に支える対象としてではなく、一人の尊厳のある個人として捉え、その個性と能力を十分に発揮しながら、共に支えあって生きることができるようになることが重要である。 (事務局) 前回の委員会において、運動機能の低下や閉じこもり傾向の割合が、南部圏域でやや高い状況にあるのではないかとの意見があった。アンケート結果を確認すると、「トイレの心配」や「病気」を理由に外出を控えている方、また、高血圧の治療中の方が南部圏域でやや多い状況である。これらの身体的、精神的な不安や地理的な環境から、活動制限や活動不活発の引き金となっている可能性が考えられる。アンケート結果及び各種事業で得た情報等も踏まえ、事業計画を検討していく予定としている。 議題２ その他 今後のスケジュールについて 質疑等なし
7. 備 考	